

2010年10月21日

ヒートポンプ問題連絡会御中

株式会社富士通ゼネラル  
経営執行役 兼) 空調機事業管理部長  
宮嶋 嘉信

ヒートポンプ性能表示についての公開質問について

拝啓 時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

平素は格別なるご指導、ご鞭撻を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、2010年10月6日付けにてご依頼のありました、ヒートポンプ性能表示についてのご質問について、添付のとおり回答させていただきます。ご査収の程、宜しく願いいたします。

敬具

- Q1 御社の製品の場合、爆風モードによる性能測定によるエアコンの販売を行っていたことがありますか。あるとすれば、その時期はいつからいつまででしょうか。
- Q2 毎年の製品ごとに、爆風モードを起動するためのスイッチ操作方法を明らかにしてください（自動起動の場合は明記）。また、各機器の国内販売台数（実績）の概数も明記してください。
- Q3 上記の測定方法やその表示は、法令や消費者への情報提供の観点から、適正なものと考えていますか。また、いわゆる爆風モードを搭載していると知りながら、これらの機器を製造・販売していたのであれば、御社としてどのような経営責任をとられるつもりか記載してください。

【回答（Q1からQ3までまとめて回答いたします）】

弊社製エアコンの性能表示は、JIS規格に定められた試験条件、測定方法で性能評価を実施するとともに、各種法令を遵守し、表示を行っております。

しかしながら過去において、JIS規格に定められた試験条件範囲ではありますが、リモコンの設定を能力最大となる「18℃」「強風」にし、所定の時間を経過しても室温が下がらない場合は、風量を自動的に高める仕様を採用し、その条件での性能表示をしていた時期はあります。

実際にお客様が使用するときでも同様な運転とはなりますが、取扱説明書への記載を行っていなかったため、消費者の誤解を招きかねない点があったと真摯に受け止めております。現在の製品では、このような仕様はありません。

なお、自動で風量を上げる場合と上げない場合の年間電気代に及ぼす影響は1%弱と推定しております。

- Q4 上記の問題に加えて、エアコンの使用時間についても過大に見積もられ、実体とはかい離した表記がなされていると伝えられています。エアコンの性能測定方法や店頭表示法に関しては、通常作動や時間に即した表示とすべきと思いますが、御社としての今後改善策や基本方針を明らかにしてください。

【回答】

エアコンの使用時間を一義的に決めることは困難であると考えますが、今後、より客観的評価ができる方法を検討していく必要はあると認識しております。経済産業省や有識者のご指導を得ながら、より良い表示方法を検討していきます。

Q5 エアコンに冷媒としてフロンを使用している場合、カタログにフロンの種類、封入量、地球温暖化効果を表示すべきと考えますが、御社の製品カタログでは表示されていますか？また、冷媒フロンの対応について自然冷媒への転換や今後の表示等についてのお考えをお聞かせください。

【回答】

カタログには使用冷媒名を表示し、製品本体には、使用冷媒名・封入量・地球温暖化効果をラベル表示しています。

冷媒フロンの対応については、地球温暖化防止の観点からも非常に重要な課題であると認識しており、代替冷媒への転換技術の開発を鋭意進めております。

Q6 御社ではエコキュートを年間何台程度、製造販売しているのか具体的にお書きください。また御社のエコキュートは、性能表示と実性能が上記のように違いがあるのでしょうか。

【回答】

弊社ではエコキュートは製造／販売しておりません。

Q7 エコキュートの効率について、適正な測定規格・表示を導入する方向に進む責務について、貴殿はどのようにお考えですか。

【回答】

弊社ではエコキュートは製造／販売しておりません。

Q8 実態を欠く、虚構のヒートポンプを推進した弁償として、市場に出回った冷媒フロン、いわゆるフロンバンクの回収対策についてどのように考えますか（自己資金によるフロンの買い取りなど）、御社の方針をお聞かせください。

【回答】

市場における冷媒の回収につきましては、家電リサイクル法の枠組みの中でメーカーとしての責務を果たしていると認識しております。

Q9 表示性能に満たない製品を購入した消費者に対して、どのように弁償するのか（金銭賠償や、表示どおりの性能が発揮される製品への取り替えなど）、方針をお聞かせください。

【回答】

弊社製エアコンの性能表示は、J I S規格に定められた試験条件、測定方法で性能評価を実施するとともに、各種法令を遵守し、表示を行っております。

Q10 (財) ヒートポンプ・蓄熱センターが6月8日、ヒートポンプの高性能化、普及拡大で大きな経済効果とCO2の大幅削減が期待できるとの報告書を発表しました。報告書では、冷暖房や給湯がすべてヒートポンプに変われば1億4000万トンの削減可能性があるとしています。こうした削減PRに対してどのようにお考えですか。また、御社としてどのように関与する予定でしょうか。

【回答】

様々なご意見や調査結果を参考にさせていただき、一層の環境負荷低減に取り組んでまいります。